

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



油木分教会のある油木町は、国道2号線岡山県西部笠岡市・広島県東部福山市を起点として国道182号線を経由して神石高原町油木・庄原市東城町を経て岡山県北西部新見市・鳥取県・島根県奥出雲地方に通じる重要地点に当る。広島県下で1・2位を争う豪雪地帯でもあり、高所の市街でもある(中心地海拔525m)。

立教181年
3月号

学生層育成者講習会
開催
学生担当
委員会

大教会学生担当委員会(山野弘実委員長)は2月21日、中山祥吉先生(本部学生担当委員・あきよ志分教会長)を講師に迎え、大教会2月月次祭後に「学生層育成者講習会」を開催した。学生層をはじめとする道の後継者育成の重要性を理解すると共に、活動を広めていく事を目的に毎年開催しているもの。

講話内容は次の通り。

先の春の大祭で、真柱様はかんろだいの節について、各段を繋ぐほども破損し仮の復旧も出来なかった事から、お互いの心の繋ぎが欠けている、更には一手一つになれとお仕込みであると感じたとお話し下さいました。教祖130年祭を終え、育成だという声を頂き、さらにこのように真柱様のお言葉を頂きました。これは次代を担っていくようばくを育成するのを、少年会がやる、学生担当委員会がやる、ということではなく、一手一つに皆で育成しなければ



中山祥吉先生の講話

ばいけない時が来ているのだということをお示し頂いたように思います。

学生担当委員会では活動方針に「誠の心で人材の育成に努めよう」と掲げています。育成と聞かれて先生方はどうのように思われますか。この子を育成しないといけないと思える子がおられますか。自分の子供や、信者さんの子弟の顔が思い浮かんだかもしれません。しかしここで言う育成は、学生や若い人だけでなく、この道に繋がる全員がまだまだ育たなければいけないという事を考えさせて頂いています。では、教祖はどうやって育成されたのか。逸話編の中で私が目を付けたのは、

教祖御在世当時、教祖のお近くで勤めていた方々への教祖のお言葉をよく考えます。教祖がわざわざ育成とは仰いませんが、日常でぼろりぼろりと落とされていくお話が心に生きていると考えます。教祖の話の中には喜び方の話もいっぱいあります。最たるものが「水を飲めば水の味がする」という皆様方もよくご存じのお話です。喜び方、受け取り方、これは私達が日常暮らしていく中で些細な事だが忘れがちなことだと思うのです。そしてこれを教祖は伝えておられる。育成とは人を育てることです。私には子供が7人いますが、ご飯を食べさせていけば知らない間に大きくなっています。けれども心は見えません。心をどうやって育てたら良いのか、そう思うと毎日の生活の中で私達がどれだけ喜んで通っているか、物事を受けた時にどんな気持ちで受けているのかということが、子供には見えていけるのだらうと思えます。

私は今まで色々な経験もさせてもらいましたが、こうやって喜びが大切だと思える一番根本にあるのは私の祖父です。私の祖父は東京布教で小さな小さな小屋に住んでいました。家にトイレもなく駅のトイレを使う、そんな中を喜んで通っていました。ある時にはやっとの思いで道に繋がった信者さんが、包丁を持って乗り込んできた事もあったそうです。その苦勞の話をするのですが、決して苦勞話にしない。楽しく喜んで通ってきた話に変えてくれています。毎日の中を喜んで通る事は物凄い事だなど、そしてこの喜びの姿は子供の心に伝わっていると思うのです。喜びを伝えるには相手をよく見る事が必要だと思えます。そしてよく見るだけでなく、その子の良いところを伸ばして自信を付ける事が育成の意味だと思えます。良いところをこちらが見つけてあげようとする事が、相手にとって大きな自信に変わりますが、相手にとって大きな自信に変わりますが、自分から変わろうと言う気持ちに繋がっていくと思えます。

育成にとつて一番の天敵は思い込みです。一回言っただけで断られたら次も駄目だろうと思ってしまう、声を掛けなくなる、こちらの心が閉ざしてしまう。色々な人が色々な時、どんなタイミングで成人していくか分からない。こちらの声を待ち望んでいるかもしれない。教祖の声を待っているかもしれないのに、こちらが勝手にだめだろう、どうせ出来ないだろうと思う事が育成

の邪魔をしてしまう。逆に言えばこの思い込みを外せば大きな御守護をお見せ頂けるのです。今私の教会に繋がっている全くの未信者の子が、広島教区学生会のスタッフをしてくれてい

ます。その子が先日、私に教理勉強をしませんかと声を掛けてくれました。その子はこどもおぢばがえりに5回ほど私の娘と参加してくれておりました。一昨年の春の学生おぢばがえり大会の時に、おぢばから動員のお声を頂いた時に、その子のことを思い浮かべました。しかし、全くの未信者の家、こどもおぢばがえりは良くても、春の学生おぢばがえりは行ってくれるだろうか、駄目かもしれないと葛藤があったのですが、せっかくのおぢばからの声なので駄目元で声を掛けさせていた

育たん」とあります。こちらが育てようと思わなければ育たない。育って欲しい時には、私達がどんな喜びの姿を見せればよいのか。それはやはり神様にもたれて、信じて通っているという姿を見てもらって、神様にも見て頂いた上に動いてもらうという事が必要だと思います。

学生は学生の刺激で大きく成長します。私達が見せる姿、言葉は確かに必要ですが、もう一つ大きな要素として、横の繋がり道の学生の繋がりも必要だと思います。ある年の学生生徒修養会の時に、1人気になる女の子がいました。その子は表情も暗く、1週間の内の5日しか出られませんでした。最初は表情も暗かったその子でしたが、2日目、3日目、4日目と日が経つにつれて段々と笑顔になっていき、5日目には最後まで居ますと言ってくれました。この子に一体なにが起きたのか気になり、班のカウンセラーに聞いてみました。その班には1人の男子学生がいて、その男子学生がずっとその女の子の事を気に掛けていて、どこに行くにも、何をすることもずっと声を掛けていたそうです。何故かと思

生は大学2年生の時に鬱うつになり、学校に1年間通えなかった。そしてその時にあるお世話になった人が居て、その人が1年間ずっと声を掛けてくれて学校に出て行ける様になった。ありがたいなと思つて今回の学修に來させて貰い、同じ班にその女の子を見つけた時に、「ああ、神様この人をおたすけしなさいと言うのですね」と思い、声を掛け行動を共にし、その女の子が変わつていったということでした。学生

は学生の姿で大きく変わるといふのは、学生も心を持つておたすけ出来るということだと思います。私が生徒の頃にはほつといってもらいたい、大人にこうしてやつてくれと言われると、うるさいなと思う学生が多かった様に思います。今の学生はと言いますと、学生と話をさせてもらつていてる時に私の頃とは違うなと思つたのは、「失敗しない為にはどうしたら良いですか。」と聞いてくるのです。それはもう自分で考えるのを諦めている様に思えたのです。自分で考えないことを、一生懸命にやれと言われたとしても出来ないと思

うからやる。この男子学生が自分からその女の子の事をおたすけしようとしたことから、そういつた事を見つけて、そして自分からやろうというそんな気持ちになつてもらいたい、そのように思わせてもらいました。

私達が日頃接している学生を、最初にも言いましたがもう一度思い起こしてみてください。自分の周りには学生がいない、そんな子はいないと思う方もあるかもしれませんが。しかし皆様には大きな大きな役割があります。それは何かと言いますと、皆で支え合つて育成をするという事だと思ひます。学担の先生がおられるとお思ひますが、学担の御用を頂いて100パーセント学担の御用に力を捧げている先生は居ないと思ひます。なぜなら教会がある、自分の所の信者さんがいる。ということ、ちよつとの時間だけです、その時間を学生の為にと思つてやつていてる。その先生方が、自分達が学生を成人させるのだと、そこまで中々思い切れないし、もし成人してくれなくても、そこは家庭でやつて下さいと思つてしまう節があると思ひます。私はここが大きな役割だと思ひます。真柱様も「一手一つになれ」と仰せ下さいました。若

おさしづに、「育てば育つ、育てにや

い人が教会に来たら、知らなかったら知らないなりに声を掛けてあげて下さい。他愛のない会話が良いいと思います。一人二人と知り合いができれば、また教会に行ってみようとなつて思いますが、そして教会に繋がって良かったなと思える仲間がきつてきます。さらにその中で、確固たる信念を、信仰心を持った人との出会いがその人を大きく変えていくくれると思います。先日ある広島教区出身の天理大学生と電話をしました。その子に話を聞くと、高校の時に比べて神殿によく行くようになりましてと言いました。それも1人です。当たり前だと思ふかもしれませんが、大学生はほとんど神殿には行きません。1人となると尚更です。自分で強い思いを持たないと行かないのです。なぜ行くようになったのかと聞きますと、多くの先生と出会い、たくさんのお話を聞かせて頂き、このお道は素晴らしいと思つたそうです。そして先生から聞いた話を広島の学生会で披露すると、もっと聞かせてと言われたのです。そこでその子は、先生の話をスポンジの様にどんどん吸収しようと思つたのです。そして話を聞くだけでは駄目だ、実行しなければ駄目だと

言われて1人で行くようになったので、私は学生も大人も一緒だと思ひます。自分がどこかで發揮する力を、發揮する場所を持てば、しつかり求めようと思ふ。また、伝えるためには理作りをしなければならぬと思ふのです。

育成は学生だけでなく、今繋がっている信者さん一人ひとりにおたすけの心を持つて掛かる信仰心を培うその時間を持つてもらうということを私達はしていかねばならないと思ひます。共々にこれから先を担う若い子を育成することに尽力して頂きたいと思ひます。これから先、この笠岡に繋がる若い人達がこれからのお道を担つて、頑張つてくれることを祈念致しまして、お話を終わらせて頂きます。

(文責：学生担当委員 岡崎治喜)

教会長講習会 開催

布教部

布教部長 田 中 隆 之

現在のお道は、道の子弟を始めとした人材の育成に全教挙げて取り組んでいます。人材の育成、とりわけ道の子

弟育成は、一年間だけの一過性のもではなく、十年先、またその先を見据え、継続性をもつて取り組まなければならぬ、最重要課題でもありますが、まずは、私たち教会長、そして育成する立場にある一人ひとりが、日々の生活の中での陽気ぐらしの実践こそが、子弟育成へと繋がり、土地所の陽気ぐらしの道場としての教会の有りように繋がっていくと思ひます。

そうした上から本年の教会長講習会(2月26日から27日)では、「地域社会に於ける教会の在り方」を私達にできるにいがけ・おたすけを考えるをテーマに開催させて頂いた。



高淵 徹 先生の講話

第一講では、法奥金澤分教会長・高淵徹先生の講話を全員で拝聴させて頂いた。現代の社会は骨粗しょう症が非常に増えている。高齢者だけでなく、若年層といわれる年代にも多く見られる。現代は、我が身ばかりを立てて、親を立てない、人を立てない風潮が強まっている、と現代のおたすけへの糸口を提示された。更に、教会全焼から孫を含む身内四人の出直しという大節の中、心倒しそうなところを、いんねんの自覚をもつて、おつとめとおたすけ一条の心を定め、更に心を奮い立たせ、現在地に今まで以上の普請を御守護頂かれた。まさに節から芽を吹く通り方を教えて頂いた。

第二講では、大恵山分教会長の瀬藤友昭氏より、自身が校長を務める通信制高校の概要、カリキュラムなどを紹介し、様々な原因から高校を断念せざるを得ない子供たちにも、将来に繋がる道があるとなげた。家庭環境が大きな要因ではあるが、当事者年代層へのおたすけへの入口を示していただいたように思う。

翌27日は、現代社会の諸問題へのアプローチとして、分科会形式で、○高齢者支援「認知症への関わり方」、○

カウンセリング「聴くことの大切さ」の2コースに分かれて講義が進められた。以下にその概要を記載します。

○カウンセリング

先ず山崎岩根先生が、「カウンセリングに学ぶ聴くことの大切さ」と題し、身内の事例を参考に、自分の意見を言うのではなく、聴くことの大切さを強調された。その中、諭達第三号を抜粋し、「おたすけは周囲に心を配ることから始まる。(中略)共々に人たすけに向かうまでに丹精したい」というのが、実はカウンセリングとして非常に大切なこと、と述べられ講義が進められた。

「非日常的関係」カウンセリングの枠組みとして、クライエント(相談者)を守ると同時に、カウンセラー(聴く人)も守る形であること。中でも私たちがおたすけ人がよくしてしまふ事として、相手の言葉に対し「でも」「しかし」など、価値観を押しつけがちだと説明された。相手はただその思いを聞いてもらえるだけで心にゆとりと勇気が少しづつ回復していくという。その後講師が変わり、虫食いの形で配られたプリントに、自分の意見を記入し、二人一組になって相手に内容を伝えるという実践形式の講義が進めら

れた。その中で、天理ファミリーネットワーク(TFN)の先の山崎先生と同じく「聴く」事に心向かわせるためには、先ず「相手を否定しない」ということが重要で、相手の思いを聴く事から始まると、参考資料のプリントを活用しながら、私たちに聴く事の大切さと重要性を伝えて下さった。

○「認知症について」渡辺一城氏

*他人事ではない『認知症』↓『自分たちの問題である』という認識が必要

2012年、約462万人・65歳以上の7人に1人。2025年には、700万人・65歳以上の5人に1人。

*単なる物忘れと、認知症は違います

「食べたメニューを思い出せないのは、物忘れ」・「食べたこと自体を覚えていないのは、認知症の疑いがあります」

*聞こえていませんか? 「認知症と生きる」わたしたちの声

『認知症になっても人生は終わらない』・『お医者さん私の顔を見て話して!』

*認知症の人への対応の心得 3つの「ない」

- ①驚かせない ②急がせない ③自

尊心を傷つけない

*ようぼく、というより一人の人間として

《認知症の人の「杖」になる》

○講義・演習「認知症の人に対する具体的な接し方」原田正晴氏

*ボケても人生まだまだ2018 教会ようぼくの役割居場所作り。

教育の場。頭でなく心の成人の機会。出会いの意味。

*介護の原則 出来ないことは諦めて、出来ることをトコトン生かす。

*J・F・kさん 大変なのは本人ではなく、対処の仕方が分からない周り。それが更に本人を追いつめる。

*我々の立ち位置 「そのために私たちがいる」 「その人が今のままで主人公になる生活」



大教会参道脇の樹木伐採



寒空の中での神名流し

「有志ひのきしん隊」 「あらきとつりよう」 「一斉にいがけデー」 実施 青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、2月18日、大教会で有志ひのきしん隊を実施した。2月のひのきしんは、1月に続いて大教会参道脇の樹木伐採を行った。寒空の下、5人の参加者は勇んでひのきしんに励んだ。 また、毎月の「あらきとつりよう」一斉にいがけデー」をこの日に合わせて実施。ひのきしんの後に、大教会周辺で声高らかに神名流しを行った。



お話しされる三代 幸 先生

よふぼく勉強会開催 テーマは

「信者子弟の育成」

2月月次祭後

育成部

育成掛(中島誠治主任)は、2月21日大教会祭典終了後、午後1時30分から2時まで会議室でよふぼく勉強会を開催、約20人が参加した。テーマは「信者子弟の育成」。

と冒頭示された。自教会では、とにかく声掛けやはこぶ事など、継続する事に重点を置き、また育成・丹精はこちら側が心を配り、繋いでゆく事の大切さなど経験を交えて話された。

そして、信者家庭で別席を運んでいない子弟などには、参拝に来て頂く事を第一に、お互いの心に負担が生じない様、自然に任せた教会の有り方を話され、最後に日常の中でいろいろな事を見せられた時に、自分の中でそれをどの様に咀嚼して、どの様に伝えてゆくのかを考えながら通っていると締めくくられた。

雅楽勉強会開催

3・4 大教会で

雅鶯会

今年も3月4日に恒例の「雅楽勉強会」を開催しました。開講式に続いて、各部屋での練習が始まり、唱歌・管別練習・昼食をはさんで合奏練習にと皆熱心に練習に打ち込み、短時間の勉強会でしたが、雅楽の楽しさと奥の深さを体験できたのではないのでしょうか。次回はいつそう賑やかな「勉強会」に



次代の楽人を目指して



越天楽の合奏練習

したいと思います。各教会のご協力をお願いいたします。

こころの詩

(雅鶯会楽長 中島 誠 治)

笠岡の教友が選ばれ掲載されてきましたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽3月11日付「時報歌壇」

・福満◎ 福島悦子さん

如月の空仰ぎつつ欠伸して

濯ぎもの干す夜勤明けの娘

▽3月18日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

試歩の杖暫し休めて初音かな

▼『陽気』誌3月号「道柳」より転載。

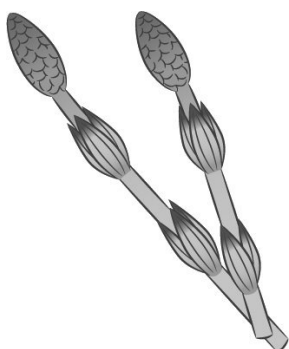
▽秀 詠

・東悠◎ 田林美智子さん

真実や心に誠の温かさ

▼表紙写真

(油木分教会提供)





教祖見つめて回廊拭き

3月3日から9日まで、学生生徒修養会大学の部が、「感じよう！表そう！陽気ぐらし」をテーマに親里で開催され、全国から道につながる大学生・専門学校生47人が受講した(うち笠岡大教会から8人受講)。

受講生たちは、グループタイム、講義、にをいかけ、ひのきしん、修練などを通して、自分自身の信仰を見つめ

学生生徒修養会
大学の部
高校卒業生コース
開催

◎本部食堂ひのきしん

大教会だより

自 立教181年2月16日
至 立教181年2月28日

多古浦 余村 玲

ると共に、一人一人が陽気ぐらしについて実践をしながら、教えを深めていった。

また、3月10日から12日まで、今回で4回目となる学修・高校卒業生コースが、同じく親里で開催され、笠岡大教会から3人が受講した。



声高らかに神名流し

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめてをどり	地方	役割/区分						
											坐り勤	前 半	後 半				
今川 佐智子	佐藤 香苗	虫明 好美	中島 誠治	中村 義太郎	今川 昌彦	笹尾 正治	中村 邦義	杉原 博之	門脇 郁子	田中 ますみ	大教会 奥様	吉岡 繁道	上原 繁道	大教会 長様	森本 忠善	谷内 伸自	佐藤 道孝
横山 小智榮	岡崎 豊子	内海 安子	赤木 素志	中村 道徳	三島 涉	山田 敏教	武内 清明	浅野 明教	高木 孝子	谷内 美知子	上原 順子	吉岡 誠一郎	岡崎 真一	田中 隆之	内海 史郎	山野 弘実	上原 志郎
岡崎 和美	中村 初美	門脇 加津	岡田 誠	渡邊 隆夫	虫明 立生	上原 繁次	田林 久嗣	横山 逸郎	吉岡 八恵	室 悦子	武内 正美	上原 昌彦	今川 昌彦	中村 剛	佐藤 真孝	高木 昭祥	門脇 元教

講話	学生層育成者講習会	
	吉岡 誠一郎	中島 誠治
祭主	大教会 長様	
	吉岡 誠一郎	中島 誠治
指図方	浅野 明教	
	内海 史郎	佐藤 道孝
賛者	浅野 明教	
	内海 史郎	佐藤 道孝

立教百八十一年 二月月次祭 祭典役割表

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心一杯の御守護を頂いて日々は結構に恙なく生活させて頂いておりますがこの冬は殊の外寒さが厳しく水道が凍って水が出ない等して生活に支障が出ており今年も立春は過ぎましたが寒さは一向に和らぐ気配はありませんでもそのお陰かお隣韓国では雪や氷の心配なく連日熱戦が繰り広げられており多くの人がそれを楽しませて頂いておりますことは誠に有り難い事と喜ばせて頂いております 只一方で身上や事情で苦しむ人がいます 私共は「世界一列を助けたい」との親心にお応えすべくご恩報じの思いから朝夕に御札を申し上げつつ 助けを願って月毎におつとめを勤めにいがけ・おたすけに励ませて頂いております

その中今日の吉日はこの名称の月毎の御祭り日でございますので おつとめ奉仕人一同たすけ心も一人に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて二月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には寒さまだまだ厳しい中今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共に声高らかにお歌を唱和し日頃のご高恩に改めてお礼申し上げ変わらぬ親心にお縋りする状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月と来月に亘って部内巡教をさせて頂いております 教祖百四十年祭に向け気持ちを新たにしまして 昨年の歩みの上により一層の成人を積み重ねられるようご恩報じの思いを強めてにいがけ・おたすけに邁進させて頂く所存でございます 又本日は学生層育成者講習会を開催させて頂きます 育成をする立場の私達がまずしっかりと育成の重要性を認識し 尚且つ育てる意識を持つて事に当たらせて頂きたいと存じます 更には又今月二十六二十七の二日間に亘っておおぼで教会長講習会を開催させて頂きます 講習会を通して教会長同士しっかりと話し合い 後継者講習会後の育成やようぼく信者の丹精 地域に根ざしたおたすけ等についても練り合い 談じ合って 一手一つに心を揃えて成人の歩み進めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には初代の親孝心に思いを馳せ たすけ一条にひたすら歩む皆の誠実の心をお受け取り下さいませして 万たすけの上に尚一層のご守護を賜り 一人一人と確実に心が澄み切って お望み下さる陽気ぐらしへとお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます



2月の下旬、ある研修会で講師役を務めさせて頂いた。5分間の講話を二つするだけでよい。初めは気が楽だった。ところがこの5分間の話というものはとても難しい。四苦八苦して原稿を書き、何度も練習してやっと覚えた。本番では担当した組に偶然にも同じ教区からの受講者がいたのでとても話しやすく、大変愉快でもしろかったと好評だった。責任を果たし、やれやれとはつびを脱いでいると、もう一組、分担があるとのこと。想定外だったが、役割をよく確かめていなかった自分のミスなのでしぶしぶ引き受けた。次の教室に行つて驚いた。先ほどの組から3人がプログラムの司会役としてきているのだ。「また同じ話か」と、軽く思われては沽券に関わると、アドリブを入れて話した。これが大失敗で、滑りまくり、あまりにもシクンとした反応に落ち込んでしまった。本来の対象者はその組の受講者であるのにもかかわらず、たった3人の司会者役に焦点を当てたこと、つまり私の高慢な心遣いが失敗の原因だったのである。その日のうちに帰宅せねばならぬ事情もあり、ため息ばかりでハンドゥルを握るオジサンと化した夜だった。(香)

ご支援のお願い

30分
1枚
1枚

アフリカ支援バザー
のお知らせ

開催趣旨

アフリカでのエイズ・マラリア・貧困に因る孤児の増加は、とても深刻なものになっていきます。私たちは9年前よりアフリカ現地の孤児支援NGOを通じて、衣料や学用品の支援をおこなってきました。一人では「砂漠に水一滴」にしかならないものも、力を合せてやる事で何かを動かすものになると信じ、この度孤児たちを支援する目的でバザーを開くことにしました。ご賛同下さいます方々のお越しをお待ちしております。

品物の寄贈のお願い

バザーで販売する品物を集めています。衣類、日用品、家具等、販売可能なものを求めています。2月21日～4月5日までの期間、空岡大教会で収集いたします。物品搬入の際には下記担当者までご一報下さい。なお、場合によりこちらから物品を頂きに出向くことも出来ますのでご相談下さいませ。

バザーに関するお問い合わせ
0865-66-1311
上原志郎
千枝子まで

出店者募集

- ◆ 飲食模擬店
- ◆ 商品販売

* 材料費を差し引いた売り上げ金をご寄付いただくことを出店の要件と致します
* 店舗ブースの場所は抽選で決定します

有志スタッフ募集

アフリカ支援に興味のある方、物品整理、会場設営等の準備、当日の運営に参加できる方、皆さまの知識や経験を必要としております。参加をお待ちしております。

アフリカ支援バザー

第2回

10時

13時30分

ステージ予定

吹奏楽団

雅楽

和太鼓

ダンス

ギター

出店予定

校料・日用品・家具
畜物etcのバザー...

フライド

カレー

うどん

焼そば

風情敷布

コーヒース

馬油製品

射的

アフリカ民芸品

おたのしみ

おたのしみ

おたのしみ

おたのしみ

おたのしみ

おたのしみ

おたのしみ

おたのしみ

おたのしみ

主催：天理教空岡大教会海外部
担当者：上原 志郎/千枝子

TEL 0865-66-1311

会場
空岡大教会
〒14-0066
福岡県空岡市
用22-3177
天理教空岡大教会

第12回大教会長杯親睦大スポーツ大会開催

大教会長様から「笠岡内でブロックを越えた親睦を深める会を開いて貰いたい」という思いで始まったこの大会も、今年で第12回目を迎えます。今年は**5月6日(日)**に行います。今年も、多くの方々が参加出来るよう、1チームに**会長さん、50歳以上の方、女性の方、少年会員**も必ず入るようになっています。全ブロック参加、全会参加を目指しています。スポーツに自信が有る無しに関わらず、一人でも多くご参加下さい。尚参加お供えは中学生以上1人500円となっています。当日は**おいしいカレー**が用意されています。

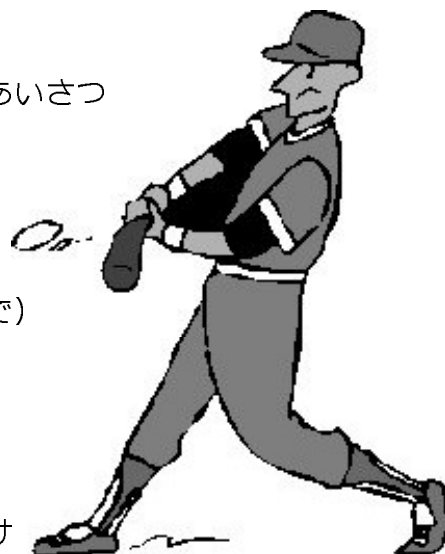
大会スケジュール

8:30までに**茂平グラウンド**に集合

【雨天で**ソフトバレーボール**の場合は体育館を用意しています。
詳細は各ブロック担当者にお尋ねください。】

開会式 遥 拝
大教会長様あいさつ
競技説明
選手宣誓
準備体操

9:15 **プレイボール**
11:00より **昼食**(13:00まで)
15:30 **閉会式** 成績発表
表彰式
挨拶
遥 拝
解散、片付け



詳細は

東	ブロック	-	虫明立生さん (陽 備)
西	ブロック	-	浅野明教さん (ひろさと)
福 山	ブロック	-	福島大介さん (福 満)
高 屋	ブロック	-	武内清和さん (香地華)
島 根	ブロック	-	三代幸徳さん (米 府)
久 松	ブロック	-	中村剛史さん (久 松)
上 下	ブロック	-	高田一弘さん (眞 府)
府中市	ブロック	-	豊田宏哉さん (府中市)

までお尋ね下さい。



← 茂平グラウンドの場所は、左のQRコードにアクセスし、ネットで検索してください。

運営委員会

昭和58年 (1983年) 立教146年

- 8・20 こかん様に続く会(三〇人)
 - 8・21 藤井明男先生を迎え之教祖百年祭布教推進隊研修会(三〇人)
 - 8・26 神免分教会神殿増築及内部改造
 - 遷座祭：九月九日
 - 鎮座祭：十一月四日
 - 奉告祭：十一月五日
 - 8・28 少年会おとどめまなび総会(六百人)
 - 9 立教百四十六年下半年布教実修会(十二月まで)
 - 10・21 大教会役員任命
 - 幹部承事 田中一之 門脇誠致
 - 准承事 森本忠平
 - 10・26 稲瀬分教会神殿増築及屋根葺替
 - 遷座祭：十一月五日
 - 鎮座祭：十二月三日
 - 奉告祭：十二月四日
 - 10・29 松田武信先生を迎え之布教所長研修会(二〇七人)
 - 11・21 板倉知治先生を迎え之縦の伝道講習会(五〇〇人)
- この年一月、大教会三代会長・本部長上原繁雄が出直した。葬儀は第八十三母屋笠岡語所で、真柱様齋主で執り行われた。

昭和58年 (1983年) 立教146年

- 3・26 輝美渡分教会三代会長谷内伸自任命(二代会長谷内信美辞任)
- 就任奉告祭：五月五日
- 3・26 上小島分教会三代会長田中一短任命(二代会長田中克郎辞任)
- 就任奉告祭：四月三日
- 3・27 第三十回春季英語講習会(五〇人 三〇日まで)
- 4・1 少年会鼓笛講習会(二六〇人 四日まで)
- 4 立教百四十六年上半年布教実修会始まる(六月まで)
- 5・26 神驛分教会四代会長渡邊孝信任命(三代会長渡邊定夫 昭和五十七年八月五日出直)
- 就任奉告祭：七月三日
- 5・29 筒井敏一先生を迎え之青年会笠岡分会総会(七〇〇人)
- 6・21 巡教員・榊井幸吉先生、浅野孝雄先生を迎え之本部巡教(七〇〇人)
- 6・26 春野喜代彦、村上領一両先生を迎え之教会長講習会(一三七人)
- 7・26 摩耶分教会四代会長岡本久善任命(三代会長川合津多恵出直)
- 就任奉告祭：九月十五日
- 7・25 こどもおちばがえり第一団出苑(高屋・久松 二八日まで)
- 7・29 こどもおちばがえり第二団出苑(福山 八月一日まで)
- 7・30 こどもおちばがえり第三団出苑(神邊 八月二日まで)
- 8・1 こどもおちばがえり第四団出苑(直轄 四日まで)
- 8・4 第三十回夏季英語講習会開催(六〇人 九日まで)

この年の大教会年間統計 初席者六百三十人 おさづけの理拝載者三百三十二人 修養科修了者百七十人 教人登録者八十一人 教人総数二千二十九人 よふぼく総数九千九百八十五人。全教よふぼく総数百二十五人。

昭和59年 (1984年)	立教147年	昭和59年 (1984年)	立教147年
7 . 30	こどもおちばがえり第三団出発 (高屋・久松 八月二日まで)	7 . 29	こどもおちばがえり第二団出発 (神邊 八月一日まで)
8 . 1	こどもおちばがえり第四団出発 (直轄 四日まで)	7 . 28	こどもおちばがえり島根団出発 (三十日まで)
8 . 18	こかん様に続く会開催	7 . 25	こどもおちばがえり第一団出発 (福山 二十八日まで)
8 . 24	少年会おとめまなび総会開催 (七百)	7 . 8	大教会を会場に教祖百年祭地方講習会開催
8 . 27	青年会一九月隊ひのきしん (二十三人)	6 . 26	教会長講習会開催 (百四十人)
9 . 9	布教所長成人講習会開催 (百三十人)	6 . 21	植田平太郎先生を迎え縦の伝道講習会開催 (四百にん)
9 . 29	立教百四十七年下半期布教実修会 (十一月まで)	5 . 22	平野しづ先生を迎え第十四回笠岡支部総会開催 (五百五十人)
10 . 21	大教会役員任命	5 . 6	小森正信、相原清海両先生を迎え、教祖百年祭地方講習会開催 (二百五十八人)
10 . 24	雛形かんろだいすえかえのおとめ	4 . 4	立教百四十七年上半期布教実修会 (七月まで)
10 . 25	神殿上段改修、東西札拜場ふしん竣工の御礼ぐとめ	4 . 1	少年会鼓笛講習会 (二八四人)
10 . 26	錦ヶ原分教会設立 (初代会長長池平定子任命)	3 . 27	第三十一回春季英語講習会開催 (五〇人)
10 . 26	鎮座祭：十一月四日	3 . 21	合祀祭 (大教会祖霊殿に十五柱を合祀)
10 . 26	奉告祭：十一月五日	1 . 22	三代会長一年祭 (大教会祖霊殿)
10 . 26	設立場所：岡山市藤田一千九百二十九番地の四	1 . 19	三代会長・本部長上原繁雄一年祭 (清水國雄先生斎主 本部祖霊殿)
10 . 26	権島分教会移転	1 . 11	大教会史編纂常任委員会 (この年以後十五回開く)
10 . 26	旧所在地：北海道苫小牧市矢代町一丁目一番八号		
10 . 26	新所在地：北海道苫小牧市新富町一丁目十六番地		
	鎮座祭：十一月十一日		